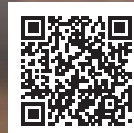


指定国立大学法人 START



指定国立大学法人としての
取り組みはこちらをチェック!

東京医科歯科大学は「世代を超えて地球・人類の『トータル・ヘルスケア』を実現する」という目標を掲げ、2022年度から指定国立大学法人として大きく動きだしました。本学が目指している「研究力強化」「人材育成・獲得」「国際協働の推進」「社会との連携」「財政基盤強化」「ガバナンス強化」に向けて取り組んでいる、若手研究者支援制度、重点研究領域の設置、若手研究者の育成スキームの構築、海外とのネットワークの拡充、産官学連携の推進について、古川哲史理事ら4名に、座談会形式で語っていただきました。

副理事（目標・評価担当）

わたべ てつろう
渡部 徹郎

人材の育成・獲得および国際協働の
推進を主に担当

消化器病態学分野 教授／
創生医学コンソーシアム
消化器創生ユニット ユニット長

おかもと りゅういち
岡本 隆一

産官学民の連携強化を主に担当

執行役・副学長（情報・国際交流担当）

もりお ともひろ
森尾 友宏

研究力強化および国際協働の推進を
主に担当

理事・副学長（研究・改革担当）

ふるかわ てつし
古川 哲史

指定国立大学法人構想の担当理事
として全体をまとめる

多様な立場の研究者を支える

本学独自の若手研究者支援制度

古川 本学では、以前から国の支援のもと「TMDU卓越大学院生制度（Ⅰ）（Ⅱ）」として優秀な大学院生課程学生を対象にTMDU卓越大学院生を選抜し、支援を提供してきました。しかし、医師免許を持つている研究者の応募が少なかったため、今年度より新たに取入れたのが、本学独自のクリニシャン・サイエンティスト（以降CS）養成支援制度です。大学卒業後に研修医などで臨床を経験することで学生時代に持っていた基礎研究への熱意が薄れたり、経済的な理由から大学院に戻ることを諦めたりする学生を支援し、臨床の視点に立つて基礎研究を行う研究者を増やすことが目的です。これらの制度について、先生方はいかがお考えですか？

森尾 今年度は、臨床系の人の応募が少

なかったのですが、今後、採用された人の実績によって、制度が浸透していくのではないかと考えています。その結果、新たな要望が出ればさらに付加していく形をとっていききたいですね。

岡本 基礎研究を志す学生にとって、大変有用な制度だと思っています。私の研究室から選ばれた桐野桜さんは、採択学生の一人としてコメントを寄せてくれましたが、非常に研究意欲の高い学生です。大学卒業後に研修医として臨床研究を経て、大学院に戻り基礎研究に打ち込むという、CS養成支援制度に理想的なキャリアを積んでいます。また、桐野さんの場合は現在、子育てをしながら研究活動を続けています。支援制度があることで、さまざまな学生がライフステージに合わせたキャリア形成を実現できるのではないのでしょうか。

古川 CS7名の選考にあたり、ヒアリングを行ったのですが、桐野さんをはじめ想定以上のレベルの大学院生が集

まったという手応えを感じています。

渡部 経済的な支援だけではない点も重要だと思っています。YISC（Young Investigator Support Center）若手研究者支援センター）で本学の教育コンテンツを生かしたセミナーなどが増えていますし、卓越大学院生同士が交流できる利点もあります。この制度によって、本学の大学院生全体の底上げが期待できます。今後はこの制度によって海外との交流が活発になることを楽しみにしています。

3つの重点研究領域展開で進む

若手研究者育成と異分野融合

岡本 今年度からの新たな取り組みとして、「創生医学」「希少疾患・難病」「口腔科学」という3つの重点研究領域の設置もありますね。私は「創生医学」の領域での参加ですが、重点研究領域の設置によって、大学の目指す方向性が明確に

なったことを強く感じています。

古川 重点研究領域導入のコンセプトは主に2点、若手の育成と異分野との融合です。世界でトップジャーナルに掲載された1万7000論文の多くは異分野が融合した研究成果であるなど、イノベーションには異分野融合が欠かせません。そのため、重点研究領域の研究者の選定にあたり、ボトムアップの公募研究者には若手を優先し、トップダウンの指定研究者には異分野の人を入れていただくようにしています。

森尾 合同シンポジウムなども開催されましたが活況でした。本学はもともと「難病」に強く、難治疾患研究所があり、病院には希少疾患先端医療センターなども備えています。データサイエンス系人材の参加など、横軸に展開しやすい領域ですので、領域内・領域間での連携を進めていきたいと思っています。

渡部 私が参加する「口腔科学」は、歯学、医学のほか工学とも親和性が高く、重点

研究領域となったことで、異分野融合が進み、今までできなかった研究にも着手しています。

学部生から研究者へとつなぐ シームレスな支援体制の確立

古川 重点研究領域のコンセプトにもありましたが、本学が次のステップに進むために欠かせないのが、若手研究者の育成です。学部生から大学院生、ポスドク、PI（Principal Investigator…研究主宰者）へのシームレスな育成のための取り組みが、次世代研究者育成ユニットやテニ



アトラック教員の採用、そして、YISCの設置です。

以前から、学部生には研究実践プログラムなど4つのサポートがあり、大学院生については前述の卓越大学院制度がありました。その後の段階として科研費がとれる前の研究の初心者を対象に、重点研究領域の公募があります。次にある程度力のついた研究者を支援するのが、次世代研究者育成ユニットの採用です。さらに、PIになるまでをつなぐのがテニユアトラック制度になります。今年度はテニユアトラック制度後に独立した教授職を与えるという道筋を明確にしたところ、多くの応募があり、40倍強の倍率の中、塩飽裕紀先生と楠山譲二先生の2名が採用されました。

森尾 非常に優秀な研究者が応募してくれているので、今後TMDUテニユアトラックというのが、一つのブランドになるといいなと思っています。

岡本 YISCという具体的な組織ができたことで、学生が独立した研究者になるためのノウハウや大学の育成経験の蓄積を、引き継ぐ仕組みができたことは大きな意味がありますね。

渡部 今後は、本学で卓越大学院生として活躍した後に独立ポジションを獲得する過程において、一度海外に留学して広い視野を身につける機会が若手研究者育成の取り組みに加わっても良いと

渡部 EECODは本学で学んだ留学生が、帰国後に再度高い技術を学ぶために利用されています。国際的な教育レベルを高めると同時に、本学の評判を広げていくことも一つの目的です。今後は歯学だけでなく医学の教育コンテンツをグローバルに展開することで、世界をリードしていきたいと思っています。

開かれた環境から生まれる

新たな産官学連携の可能性

渡部 TMDU Innovation Parkは、本学を中心としたアカデミアと、多様な業種の企業・スタートアップや行政との産官学でイノベーションを目指すコミュニティです。スタートアップ企業が本学の設備を使って研究を進めるなど、オープンラボとしても機能しています。

森尾 これまでの産学連携では、一つの研究室と企業との付き合い合いが主体でした。TIPのような開かれた場で企業や行政と連携していくことで、多くの可能性が生まれると思います。

古川 今の学生や大学院生は、スタートアップのマインドを持っているように感じます。今、世界の中心となっているGAFANAなどはスタートアップ企業です。日本はこの30年ほど、世界に通用するスタートアップ企業は生まれていません。



ヘルスケアはスタートアップ企業が飛躍する可能性の高い分野です。ぜひTIPから、日本の産業構造を変えるようなスタートアップが生まれてほしいですね。

岡本 世の中の多くの医療系企業は、健康医療で社会を変えていくことを基盤としていると思います。TIPを通して、学生たちには、社会に貢献する志を育ててほしいですね。

古川 日本の中心地にある本学は、イノベーションが生まれる場として、世界をつなぐ役割を果たすことができます。国内外の研究者や企業を結ぶハブであると同時に、本学で学んだ若い研究者たちが、外の世界で学び、また戻ってきてくれるような大学でありたいと願っています。

About Clinician Scientist (CS)

クリニシャン・サイエンティストとは

TMDU 卓越大学院生

挑戦的・融合的な研究に専念できる研究環境と多様なキャリアパス形成に向けた支援を提供

TMDU 卓越大学院生制度（Ⅰ）
1学年6名（3学年18名）、支給期間：3カ年
研究専念支援金：月16万円、年間192万円
研究費：50万円

TMDU 卓越大学院生制度（Ⅱ）
1学年30名（4学年120名）、支給期間：4カ年
研究専念支援金：月16万円、年間192万円
研究費：50万円

優秀な学生を選出

クリニシャン・サイエンティスト

「職業としての大学院」をコンセプトとし上記に加えて以下を支援

CS養成支援制度
1学年8名（4学年32名）
支給期間：4カ年
●CS養成支援金：年間250万円
●授業料免除：年間53万円

詳しくはこちら



STUDENTS' VOICE



臨床教室の大学院生は多忙です。研究者として、医師として、家族の一員としてさまざまな立場で重要な役割を担っています。有限の時間の中で、研究に充てる時間をより長く確保したいと考えCS養成支援制度に応募しました。支援により研究時間を確保することができます。支援を励みに研究力を高め、これまでの臨床経験も生かして人類・社会への貢献というゴールを見据えたCSを目指していきたいと考えています。

消化器病態学分野大学院1年 桐野 桜さん



CS養成支援制度で採用いただき、自身の大学院生活が職業のような扱いになりました。安心のできる収入を得ることが可能となり、より本格的な研究活動に集中することができますようになったと実感しております。今後は、研究者として備えるべき技術や知識基盤を獲得し、研究と臨床を橋渡しできる存在に成長していきたいと考えております。また、“口腔から全身を診る”という口腔制御による先制医療の確立に貢献する研究活動を行っていきたいです。

歯周病学分野大学院1年 今井 千尋さん

思います。



海外とのネットワークを拡充する 教育コンテンツづくり

森尾 本学では、グローバルフェロー制度と短中期海外滞在助成金制度が始まりました。グローバルフェロー制度は世界の第一線で活躍する研究者の方に本学の教育に加わっていただく取り組みで、フリティッシュ・コロンビア大学のヨセフ・ベニンジャー教授にご担当いただきます。オンラインで学部生への講義のほか、大学院生への指導を行っていただく予定です。短中期海外滞在

助成金制度は、ポスドクからの帰国後など海外で追加の研究を行いたい場合などに、渡航費や滞在費を支援する制度です。

一方、海外に向けての教育コンテンツなどの発信を行うのが国際医歯学教育センターです。国際的な技術水準向上を目的とし、アジア圏を基軸とした海外展開を計画しています。なかでも、大学院留学生向けの実習科目であるEECD（Essential Expertise for Clinical Dentistry）は2015年度から歯学部で取り組んできました。今後はデジタル教材としても展開ができればと考えています。



※テニユアトラック制度とは…准教授相当または講師相当として本学で研究を行い、審査に合格することで教授職として活躍が可能となる制度。